



開業した6月には毎年、周年祭「フルサット市」を開催している。上越、妙高両市だけでなく、北陸新幹線の沿線市から出店があることも（写真：2024年6月）

「フルサット」開業10周年

放射状のコンテナ商店街
ベンチャー集まる拠点に

上越妙高駅
西口

上越市の上越妙高駅西口にある商業施設兼スタートアップ拠点の「ブルサット」が17日、

今後のフルサットの方向性、上越妙高駅前に必要な変化について、運営する北信越地域資源研究所（同市大和5）の平原匡社長（48）に聞いた。

フルサットは、同
チャーター事業のため、開業から10年を迎える。北陸新幹線開業から1年余り後に開業して、観光やビジネスで上越・妙高両市を訪れる人を見つめてきた。フルサットはベンチャー事業のため、同
フルサットは新幹線開業前の2014年に構想がスタート。開設が当時珍しかった、建物用コテナを放射状に並べた商店街風の施設を目指した。
16年のオープン後は

駅前起業 最大限やった」

「フルサットは当初、駅前の土地利用が進めば移設することも選択肢にした。本格的な開発の「第二部」が前」と言われるが、自分の中では「本当に変わったのか」という思いがある。達成感には、自分たちの手でできることと

飲食店だけでなく、東京都内に本社を置く企業のサテライトオフィスも入居、県から上越地域唯一の起業家育成拠点に選ばれたことから、セミナーがたびたび

提ったが、10年間同じ場所で営業してきた。達成感とシレンマは、

西口にはホテルやビルが建ち、「開発が進んだ」「景色が変わった」

は最大限やって、10年間は維持できた。ここからは新たな仲間やスポンサーが必要。駅前はもっと分析される対象であってほしい。フルサットがやってき

なだだの客観的な牌
価やポイントも、もら
えたい。

―越妙な駅前に進
出する企業は、残念な
がら少ない。立地が難
しいか、それとも別
の理由が多数か。

全国的にも、新幹線
駅前にはいろいろな企
業や店舗が集まるに
立地するといふパツ
ケジ」のよきなもの
は存在しないのだろ

う、フレンチヤシス展
開しているサービス系
持てるのも面白いが
多い。フルサードビ
ネットにあるサード
ス(質)と義理の予約
システムと観衆席のレ
スなには助けられ
た。

——上越妙高駅周辺に
はコペンション需要
があるものの、受け入
れ可能なヘースがな

「J M DAWNがあるもの、100〜200人規模のセミナールを開くところまで、残念ながらできない。ホテルにも会議場はない。一方、県外企業からの問い合わせで、(100人以上規模のセミナーが)あつては抽選している。コペンハーゲン、シンボルの必要性が高まっている。」



「自分たちの手ではできることは最大限やって、10年間維持できたこと」に達成感を感じていると話す平原社長